

平成二十八年七月三十日 埼玉（関東第六） 偉光会館開所に向けて

ひかりのやかた

神 示

偉光会館の意味を教えよう

存在価値

運命実体 心で生きる人間は 人物 全ての運命と重なり合うほど

「人生」の価値は高められ 生きがいあるものとなる

時代

住む者の人生を彩る 土地の力を引き出すために

運命

悪しき実体を抑え込み 「運命」が導く人生が歩めるように

偉光会館の存在がある

運命実体を通して 世界は時代の流れを生み出す

時代の流れに乗って「人生」を歩むために 人は皆 奉仕の真理に悟りを開くことが必要

人間

人類が 神の手の中 守られ 救われ 開運かなう人生を歩みきるため

偉光会館を神は世に現している

真実の光会館「神の座」につながる 「偉光会館」の開所をかなえて

みち

いよいよこの地に「生きる」信者の人生は 大きく守られてゆく

神 示

神の手の中導かれて この土地は出会いがあるもの

縁

神魂宿るにふさわしい土地と申す

地域

この地の姿を教えよう

実体

努力を思い 姿 形にこだわり 「生きる」者が多い

心迷い 悩み 苦しむ姿が ここにある

今のままでは 心の迷いは治まらず 人生を枯らして終わる

「教え」に生きて 「運命」を磨く――

この地の偉光会館が この地を導き 守ってゆく

地域

家族で「教え」を学び 家族で「教え」に生きるなら

や

その家は 神の手の中 導き 守られて 栄えてゆく

や

偉光会館建立をもって この地は大きく生まれ変わる

地域

この地に偉光会館建立かなえて 信者の人生はますます輝いてゆく

いま一度申す

「教え」に生きて 我が「運命」を磨く皆であれ

信者

この地は 直使 代神の思いが根付く土地

神魂が この地を導き 守ってゆく

安心されよ

神 示

信者

この地の皆に申す

神が与えし我が「運命」 その力を枯らさぬように 「教え」に生きる皆であれ

信者

難しいことは何も無い

人生

「教え」を学び 我が心の姿に生かすこと

自然と 心の動きは安定し 多くの人物との出会いを得て 心の姿が大きく変わってゆく

開所かなえて この地の姿は大きく変わる

実体